



まいづる

農業委員会だより

No.
62

平成30年3月

発行／舞鶴市農業委員会 舞鶴市字北吸1044 TEL 66-1023 FAX 62-9891



主な内容

- 要望書提出 2・3
- 特別委員会活動報告 4・5
- 農業者紹介 6
- 担い手懇談会・農業者年金研修会 7
- 上野家料理紹介 8

第15回ふるさと加佐ロードレースが開催されました。

平成30年3月18日晴天に恵まれた日曜日の朝、250名余りの参加者によるレースが行われ、東は滋賀県草津市から、西は鳥取市まで6歳から74歳のランナーが10時半に上野家をスタートしました。

このイベントは、加佐地区活性化の目的で始まり、当初は由良川沿いの駅伝競走でしたが、現在は誰でも参加できるように3キロと5キロの2コースのマラソンに変更したところ、広報やネットなどで参加者が毎年増えて、今回は過去最多の人数を集めました。

地域イベントでも継続するのは大変で、途中で開催をどうしようか等考えた時期もあったといいます。

舞鶴走ろう会のスタッフの方、地元関係者の方、これからもますます発展されますよう祈念いたします。
(嵯峨根委員)

農業委員会から 舞鶴市長への要望書提出

舞鶴市農業委員会では毎年度、舞鶴市長に
対して「農業に関する提案・要望活動」を行っ
ています。その内容は以下のとおりです。

1、台風21号による被害からの 復旧・復興施策について

①平成29年10月に発生した台風21号による被害か
らの復旧に向けては、市としても補正予算を組む
など、積極的な対応がされておりますが、引き続
き支援策を講じられたい。

②加佐地区においては、5年間で3度の水害に遭
い、農業の担い手や新規就農者等にとって大きな
痛手を被っていることから、水害に強い農業経営
について検討・研究を実施されたい。

③台風21号により、ビニールハウス等の農業用資産
に甚大な被害を受けた担い手や新規就農者につい
ては、補助率の嵩上げ等について検討されたい。

2、多様な担い手の確保について

①集落営農組織の推進のため、共同利用機械の購
入費への援助を実施されたい。

②集落営農組織づくりのため、リーダー育成、研
修などの支援を講じられたい。

③農業の新たな担い手及び集落の担い手作りのた
め、農村への移住促進や空き家バンク制度につい
て、より一層の拡充をされたい。また、移住促進

特別地域の指定に向け、積極的な地域への働きか
け等を実施されたい。

3、農地集積やほ場整備事業の 促進について

①思い切って地元の負担を軽減し、未整備地域の
ほ場整備を促進されたい。また、地域の合意形成
づくりへの支援を行われたい。

②市街化区域の農道や水路改修への助成策を検討
されたい。

③担い手等への農地集積を推進するため、農地中
間管理事業を活用した取り組みにおいて、情報提
供や指導等の支援を行われたい。

4、耕作放棄地の解消、未然防止に 向けた対策の強化について

①耕作放棄地の解消をめざす農家と地域や団体、
新規就農者等に対して、助成措置を実施されたい。

5、有害鳥獣対策の強化について

①有害鳥獣対策強化のため、舞鶴市の体制を担当
者を増やすなどして実施されたい。

②サル被害を減少させるため、京都府に対し、
捕獲のための発信機の取り付けを増やし、個体数
を減少させるよう要望されたい。市は追払い事業
の見直しと共に住民が協力して追払いができるよ
う防除と捕獲体制を強化されたい。

③鹿、イノシシ等の捕獲を強化し、防護柵（電気柵、
メッシュ等）設置について、国の予算措置を強く
要望し、継続して実施されたい。

④有害鳥獣対策につ
いて、猟友会との連
携、各行政機関、住
民組織が連携して取
り組めるよう努力さ
れたい。

⑤クマの実態把握を
行うと共に、目撃情
報の激増に伴い、個
体数の減少に取り組
めるよう京都府に要
望されたい。

6、特産物の生産振興、地産地消、 食育教育の推進について

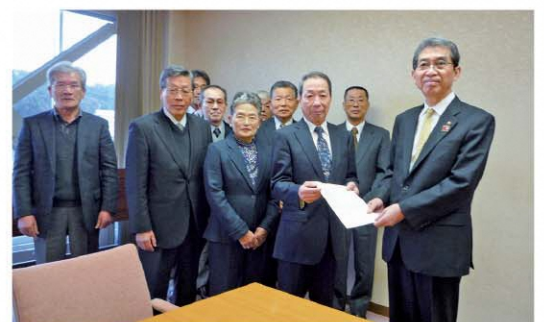
①京都府北部地方卸売市場を積極的に活用して、
JA京都にのくに等と協力し、地場産農産物の生産
拡大を図られたい。

②平成30年度以降の生産調整廃止にともなう農家
の意欲的な取り組みに対する支援と新たな稲作の
品種開発、小豆等の特産物の拡大、舞鶴に合った
特産物の開発等について、京都府・JAなどと共同
して施策を検討されたい。

③農業の6次産業化を支援する枠組みを強化され
たい。

④イベント等において、農協や関係団体等と協力し
て農産物の「品評会」を実施し、栽培技術の向上や農
家の営農への意欲を引き出す支援を行われたい。

⑤女性の活動の場を広げるため、遊休施設等を活
用し、意欲ある女性で組織する加工グループ等に



要望書提出

対して施設の改修、改善等自立経営のための支援をされたい。

⑥「万願寺甘とう」や「お茶」などの生産振興を一層すすめ、「ふるさと舞鶴あぐりブランド」のPRと販路拡大に努力されたい。

⑦茶の振興策について、特に成木になるまでの間、肥料や農薬等に対しての支援を検討されたい。

⑧小中学校や公立保育園の給食における地元産米による米飯給食の回数増加、地元食材の利用拡大に努力されたい。

⑨中学校において農作業体験学習を実施されたい。

7、農業委員会の体制強化について

①本市では、農地法改正や農地中間管理事業に係る業務量の増大から、事務局職員の増員と農業委員会活動費の増額を実施されたい。

②事務局長の専任化を実施されたい。

8、国への要望について

①自然災害等による被災農家の救済の観点から、水稻共済制度において、収穫量の判定の際に等級外のお米を除外するなど、品質も考慮した補償制度となるように国に働きかけられたい。併せて、畑作についても一筆ごとの共済加入が可能となるように、国に働きかけられたい。

②米の個別補償制度が廃止されたことから、水稻生産農家に対する新たな農業振興施策の制度化を国に働きかけられたい。

③産地交付金制度については、平成30年度以降も継続するように、国に働きかけられたい。

農地の賃借料情報

農地法第52条に基づき、賃借料の情報提供を行います。

下記の表は、平成29年1月から12月までに締結（公告）された賃借料です。

利用権設定件数（新規・更新）は112筆、うち使用貸借（無償）は104筆です。

田(水稻)の部

金額はいずれも10a当たり

農地の所在地	平均額(円)	最高額(円)	最低額(円)	契約筆数
東地区	8,100	10,600	4,000	3
西地区	4,500	4,500	4,500	1
加佐地区	3,700	5,000	2,100	6

畑の部

金額はいずれも10a当たり

農地の所在地	平均額(円)	最高額(円)	最低額(円)	契約筆数
東地区	68,000	68,000	68,000	1
西地区	—	—	—	—
加佐地区	—	—	—	—

注) 1. 金額を記載していない区分は、賃貸借の事例がなかった箇所です。

2. 金額は算出結果を100円未満切り捨てて表示しています。

3. 上記の情報は、農地法第52条の規定に基づき、参考として提供するものですので、農地の貸借に当たっては、当事者間で十分に話し合ったうえで契約してください。

京都府農地中間管理機構から

農用地を借りたい方へ

▶▶▶ 農地中間管理事業が使いやすくなりました!

京都府農地中間管理機構では、平成29年度から通年でいつでも応募いただけるように改めました。併せて、一度応募いただければ、辞退されるまで借受希望者としての登録が継続することとなりました。また、これまで10年以上での契約を原則としていましたが、農地の出し手・受け手双方から「短縮してほしい」との要望をいただき、地域の事情に応じて5年以上も可能としました。皆様のご応募お待ちしております。



京都府農業総合支援センター
(京都府農地中間管理機構)



075-417-6868

各委員会の活動報告

平成 29 年 7 月から農業委員会は新体制となり、8 月には特別委員会が設置されました。農業委員と農地利用最適化推進委員で構成される特別委員会は、運営委員会・農地対策委員会・有害鳥獣対策委員会・農業者年金推進委員会・広報委員会の 5 つの組織で成り立っています。

運営委員会

大府市農業委員会（愛知県）視察で来鶴

平成 29 年 12 月 14 日午前に総勢 21 名内農業委員 13 名で舞鶴市役所に来られました。

名古屋市の南に隣接する大府市は人口 8.9 万人、面積 33.6 km²、農地 751 ha 都市近郊農業で農業産出額 34.3 億円。販売農家数 374 人、主産物は野菜、畜産、果樹となっています。

有害鳥獣としてヌートリア、ムクドリを挙げてくださいました。

ちなみに舞鶴は人口 8.4 万人、面積 34.2 km²、農地 1300 ha、農業産出額 25.1 億円、販売農家数 714 人で主産物米、野菜、畜産の順になっています。

遊休農地が 18 ha で舞鶴は 100 ha と大変少ないのは荒れる前に借り手を探すということでした。

当委員会は会長以下 5 名で対応致しました。

安来市農業委員会（島根県）と意見交換!!

平成 30 年 2 月 27 日（火）午前 10 時から市役所別館 6 階大会議室で安来市農業委員会（農業委員 17 名、事務局 2 名）からの視察を受け、舞鶴市農業委員会の運営委員と意見交換をしました。

安来市は島根県の東部に位置する人口約 4 万人、面積約 421 km²、農地面積 3980 ha、担い手集積率 31.3% となっており、主な特産物は米、エゴマ、青唐辛子、ナツメ、イチゴ等です。

本市と同様

に最近では有害鳥獣による被害（特にイノシシ）が多く、頭を悩ませているとのこと。シカはあまり出て来てない、とのことでした。

また、農地利用状況調査



安藤委員による説明

においては、遊休農地化している箇所の写真を撮り、保存する等国の指針に沿って実施されており、本農業委員会にとっても今後の参考になるような取り組みをお聞きし、有意義な意見交換となりました。



佐藤委員による説明

農地対策委員会

農地対策委員会は、日常の監視活動を通じて、優良農地の潰廃防止や有効利用対策を考え、実態把握するために、東・西・加佐、3 地区に分かれて農業委員・推進委員と共に、農地パトロールを行い、①農地法第 3・4・5 条の許可の執行状況、②農地の違反転用や不法投棄の発見、③遊休荒廃農地の実態、④田畑転換後の管理状況の把握を実施しました。

また、今後も遊休農地解消を進めていきます。

（芦田委員）

有害鳥獣対策委員会

有害鳥獣対策委員会として鳥獣害の対策に取り組むようになり、市の農林課の調査でも被害が多く、農家にわたっていることを痛感しました。

有害鳥獣の数、被害金額等の多さにに対し対策が農家と行政との連携の重要性を認識し、その対策はどうしたらいいのかと考えるようになりました。

鳥獣害対策の手本になりそうなものを見つけ、実践農家さんにお話を聞き、それを対策事例として資料を作成・配付し、知っていただくことで、少しでも有害鳥獣被害がなくなることを思い有害鳥獣対策委員会として活動しております。

有害鳥獣被害を一举になくすことは困難です。それでも舞鶴市の農業を守るため、できることから1つずつ我々も地道に取り組んでいく覚悟です。

(櫻井委員)

農業者年金推進委員会

農業者年金推進委員会の活動について

農業委員会の中に農業委員5名、農地利用最適化推進委員3名の体制で「農業者年金推進委員会」を設置しています。

「農業者年金」は、昭和45年に農業委員会組織を中心に「農民にも恩給を」「サラリーマン並みの年金を」をスローガンに350万人の署名運動や農業委員たちの要請大会等の大運動を展開し、創設されたものです。

「農業者年金」は、農業者のための公的年金制度で、少子高齢化に対応した積み立て方式を採用し、保険料が全額社会保険料控除できる等、農業者にとって大きなメリットがあります。

しかし加入は任意のため、農業者の皆さんから、「知らなかった」「もっと早く教えてほしかった」というような声を聞く事がないよう、説明会や相談会も随時開催し、農業委員と農地利用最適化推進委員が一体となって制度の周知徹底と加入推進に取り組んでいます。

お問い合わせなどは、お近くの農業委員、農地利用最適化推進委員か、農業委員会事務局までお願いします。

(谷口会長)

きょうと女性農業委員・推進委員会

第12回総会・研修交流会

平成30年2月22日(木) 11時30分から、京都市のホテルセントノーム京都で標題の総会・研修交流会が開催されました。

総会では乾会長の挨拶、続いて議案が上程さ

れ、平成29年度の活動報告書及び決算、平成30年度の活動計画及び予算、理事の選出に関する3議案が承認されました。

午後からは農業委員会女性委員研修交流会が開催されました。農林水産業ジョブカフェ相談員から、「新規就農・農村移住の現状と受入・定着の推進について」新規就農者の夢を叶えるお手伝いがしたい」との講演を聞きました。

老若男女が相談に來られます。3日間体験をして、その後ジョブカフェに來てもらい、支援するかどうかを判断します。一足跳に農業はできません。どんな人に働きに來てほしいか、農業が好きで、根気のある人、地域でのコミュニケーション能力(挨拶ができる)がある人。

新規就農者は栽培技術や地域のコミュニケーション、生活環境の違いなど戸惑うことが多いです。集落への受け入れ定着支援や行政との橋渡し役として女性委員は「一声かける」、いろいろな思いを聞いてあげるなど、良き相談相手になってほしいと、結ばれました。

次に、農業委員会を取り組んだ婚活畑について、八幡市農業委員会の谷口久美子委員から発表がありました。

各委員会の女性活動報告の場は「あゆみ」に代わって、今年度からは全国農業新聞京都版で紹介されることになりました。

(梅垣委員)

農業者紹介

複合経営を

目指す若き農業者

今回紹介する農業者は、西方寺平地区で農業後継者として奮闘中の泉陽一さんです。

プロフィール

泉 陽 一 さん (33)

愛農学園農業高校卒業後、3年
間民間企業に勤める。

しかし、農業への想いから広島
で酪農を1年間実務研修、更に地
元で酪農ヘルパーを3年経験し、
その後実家である養鶏農家の後継
者として現在に至る。



今、この地区は新規就農者も増加し、加佐の中
でも活気溢れる地区として注目を集めています。

西方寺平は早くから養鶏が盛んな所で3軒の
農家が共同で運営されています。泉さんの経営
概要は、養鶏1500羽から1700羽を飼育、
ゴトウモミジの赤玉が一日1000個も採卵さ
れています。餌は飼料米と基礎飼料などの自家
配合を基本とされています。卵はJAの彩菜館や
道の駅で販売されています。また、野菜の作付
けがハウス6棟と、露地を含む80a、さらに水
稲は主食米と飼料米で6haの三本柱で家族経営
の良さを生かしつつ肥料についても鶏糞堆肥を
利用し、無駄のない循環型還元農業を実践され
ています。

現在、3軒の農家が共同洗卵し直接販売の開
拓に加え、個別配達などの運送業務も交代で行
うなどの努力をされています。

イベントなどで加工鶏肉を焼鳥として出店販
売を行うなど、共同活動の強みも発揮され人気
を得ています。

各々の農家で作業分担と分業化が進められて
います。

農業に想い描く未来について

まずは農産物の単価安定と補助金に頼らない
確実な農業経営を目指したいと言われているまし
た。一方で、養鶏も鳥インフルエンザのハード



ルが年々高まるなど懸念材料は多く、厳しい側
面もあるが、若い労働力が増えることが一番大
事だと強調されていました。

西方寺平は赤岩山の麓に位置し、南斜面に棚
田が広がる典型的な中山間地にあるため、標高
250mの景色は一味違います。
今年は雪が深く、お尋ねした日も多くの残雪
がありました。

(野間委員・今田副会長)



担い手農業者

担い手農業者と 農業委員会の懇談会、 農業者年金相談会の開催

1月31日午後6時より舞鶴21ビルにおいて表記の懇談会が催され33名の参加がありました。

谷口農業委員会会長挨拶の後、立山事務局長が司会者となり昨年の雪害から台風21号の被害状況報告をされました。ビニールハウスにおける被害や万願寺甘とう、小豆、玉ねぎなどの被害がありました。雪害より台風のほうがはるかに大きい被害を受けています。「被害を受けた施設の補助事業が周知されているか」については「共済と舞鶴市の補助で立て直しができるので共済

制度の必要性を実感した」という答えが返ってきました。また、毎年のように有害鳥獣被害が報告されるのですが、メッシュフェンス、電気柵、ネットなど複数の対策を講じても飛び越えて入っているようです。「防御“をするから”駆除“をすることに対策を変えないと被害は減らない。」「耕作者も猟友会だけに任せず自ら檻や罠や狩猟に関わって行かないと個体数が減らないのではないか。」「自然災害より有害鳥獣被害のほうが大きい。」「等の意見がありました。さらに、「被害の状況を聞いてはいたものの、実際に遭ってみると耕作意欲がなくなる。」といった不安の声もありました。

将来への方針や要望についての意見は、「水路が整備されていないので基盤整備が必要。」「耕作放棄や埋め立てが多くなり、雨が降ると冠水する。」「今、給付金を貰っているが、農業は赤字なので、農業で食べていけるようになったら将来について考えられる。」「水稲は利益が出ないから、施設栽培を増やす。」「最近では、若い人が増えていないから、就農サポーターで従業員の雇用のきっかけを図りたい。」「今の耕作面積で収入を増やしたい。」など様々な意見が出され、有意義な懇談会となりました。

引き続き、京都府農業会議より農業者年金についての説明がありました。

農業者は長生きで、高齢者農家は月に10万円不足するため、年金加入をと説明されました。ただ、国民年金を払いながらの加入は大変なと

ころがあります。

近年、法人化の動きが多い中で法人になると厚生年金保険の加入になるので農業者年金加入者はそこで移ることになります。

年金受給資格ができるときに平均余命が変わると受け取る年金の金額も変わるのでないか、など質問が出ました。

丁度9時に閉会になり、外は3年ぶりの皆既月食でした。

(嵯峨根委員)

この国の
農と食を
伝えます。

全国農業新聞は農業者の
公的機関である
農業委員会系統組織が発行する
週刊の農業総合専門誌です。

全国農業 新聞

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

週刊 金曜日発行
月700円、年8,400円
(消費税込)

■購読のお申し込みは、
農業委員会事務局へ
TEL 0773-66-1023

■発行所
全国農業会議所

農業者年金 で安心、豊かな老後を！

～農業者年金に加入しましょう～

- 農業者なら広く加入OK
- 税制上の優遇措置あり
- 農業に担い手には手厚い政策支援
- 少子高齢時代に強い年金
- 保険料は自由に設定OK
- 終身年金で80歳まで保証

農業者年金の内容やご相談については、最寄りの農業委員会がJA
または農業者年金基金(TEL:03-3502-3199)にお問い合わせください。(農業者年金加入推進部長 宿尾委員)



ご存知ですか。ビーガン料理

人生、初の味をいただいて一言。

大庄屋上野家にビーガン料理のカフェがオープンしていることをご存知ですか？料理人の原田さんは広島県出身で、昨年舞鶴に移住され、素材を大切にされたこだわりの料理を提供されています。今回は月替わりのランチをいただいてきました。

ビーガン（ヴィーガン）

動物性の肉・魚などは一切使わず、植物性食品のみ「だし」も野菜、キノコ・昆布から抽出したもので、味付けになります。野菜は「有機栽培」を主体とした、素材です。体にやさしい事を優先した究極の野菜料理です。



前菜（バーニャカウタ）

オーガニック野菜が主役で、少量のオリーブオイルと豆乳入りのバーニャ（ソース）で味わう。食材それぞれが味深く、程よい噛み応えと野菜本来の「うまみ」と「インスタ映え」が楽しめる 1 品。

メイン（ビーガンラーメン・タンタン風）

小麦粉を使用せず、モチモチ感やコシもある玄米粉麺を使用。
キノコ・昆布・野菜の力を最大限に引き出した「だし」と豆乳で長時間煮込んだスープ。
トッピングは大豆を素材とした「そぼろ」に白髪ネギ・水菜でシャキシャキ感を演出。柔らかくふっくらと炊いた玄米ご飯付き。食べ応え充分!!



デザート（豆乳と玄米粉の「ブラン・マンジェ」）

苺とマンゴーをムースにまとめたもの。
オーガニック農法で栽培された、ミャンマー産コーヒー。
酸味のきいた味わいと香りで身も心もリセット。

（野間委員）

ビーガンカフェ 大庄屋上野家 050-5539-0321 (定休日:火・水)

編集後記

■春本番。

新年度がスタートします。

昨今、異常気象が多発し、自然が相手の農業にとって、過酷な環境となっています。今年は穏やかで、実り豊かな秋を迎えられることを願わずにはいられません。

農業委員会は新体制となり、8ヶ月が過ぎました。今回の「だより」では、各委員会の活動報告を載せています。より身近に委員の活動をお伝えしたいと思っています。ご意見、ご感想をお待ちしています。

（梅垣委員）

●広報委員●

委員長	嵯峨根 秀樹
副委員長	梅垣 貞子
委員	今田 壽孝
委員	尾上 亮介
委員	大石 昌麿
委員	野間 久一